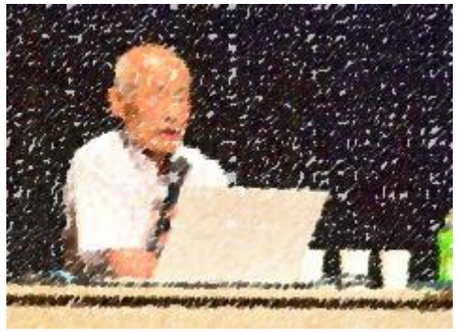
大阪市教組 OTU
2025. 7.17　1367 号
発行人：三谷　和義
編集人：田河　真理
発行所　大阪市教職員組合　TEL6942-3561　FAX6943-8039　http://otuosaka.jp

「戦争と被爆と私の人生」

7／5（土）大阪教組教研全体会
＠ドーン・センター

日本原水爆被害者団体協議会代表委員の箕牧智之さんに広島からお越しいただき、被爆体験と核廃絶へむけた運動を語っていただきました。以下は講演の抜粋です。



【ヒロシマ　８月６日の記憶】

1945 年８月６日午前８時 15 分、広島に原子爆弾が投下された。爆心地から 17 キロ離れた田舎にいた私は、家の前で遊んでいるときに強烈な光（ピカッと光った）を目撃したが、当時は雷だと思い、原爆が落ちたとは知らなかった。その日の午後、髪はボサボサ、服は破れ放題の大勢の被爆者が家の前を「水が欲しい…」と歩いてきた。そのうちの一人に頼まれて、母が桃の缶詰を開けてあげた。その方がどうなったのかはわからないが、その異様な光景は今も忘れられない。

広島市に勤めていた父を駅へ迎えに行ったが、父はその日帰ってこなかった。ふっと空を見上げたら空からいろいろな物が降ってきた。翌日、父を探しに母と１歳の弟とトラックへ乗って広島市内へ向かい、その惨状を目の当たりにした。あまりの大惨事に気を失いそうだったと母も言っていた。暑い中でたくさんの人が亡くなって、臭いはプンプンするし、非常に恐ろしい広島の町だった。父がもう亡くなったのかもわからないと仕方なく家に帰った。その間に、私たち親子はどれだけの放射能を浴びたのだろうか。

父は２日後に奇跡的に広島から歩いて帰ってきた。家族は泣いて喜んだ。原爆投下後の広島では、女性たちが路面電車を運転するなど、復興に向けた努力がなされた。その冬に広島に雪が降った。子どもたちは食べるものがないから積もった雪を食べた。

【焼け野原からの出発～生き抜くために誰もが必死だった～】

戦後の焼け野原となった広島で、孤児たちは生き抜くために靴磨きを始めた。彼らが自ら知恵をつけ、生計を立てようとした。靴磨きをしていた子どもたちに、ある外国人の女性が「お腹がすいているだろう」とパンを差し出した。しかし、子どもたちはその場でパンを食べず「家に帰ったら妹と二人で食べる」と言って受け取った。この話は後にニューヨークで私が講演した際に現地の子どもたちの涙を誘った。

戦後２年経ち、昭和 22 年、私たちは母の実家の埼玉県熊谷市に行った。当時の私たちの服装はボタンもあるかないかの粗末なもので、母が繕ってくれたものを着ていた。小学校５年の 12 月、原因不明の病気にかかった。熱が出たので風邪をひいたと思っていたが、ペニシリン注射を打っても一向に治らない。お医者さんが「これは不治の病かもしらん。亡くなるかもわからん」と言われるので、「どうにかしてこの子を助けてください」と母が頼みこみ、新薬のストレプトマイシンという注射を打った。高価な薬だったが母が工面してくれた。今思えばこれが原爆の病気だったのだろう。

非常に貧しい暮らしだった。父は土木作業、母は近くの農家へ手伝い、私は家事の手伝いと子守りをした。昭和 23 年に３番目の弟が生まれた。その子を背中におぶって家事の手伝いをした。ジャガイモの皮をむいて切って、玉ねぎの皮をむいて切って、醤油を入れてグツグツ煮ると、それがおかずになった。それを両親が「美味しい、美味しい」と言って、食べてくれた。

中学校を卒業してからは、定時制の高校に行った。月、火、水、木と学校行って、金、土、日と働いた。秋になると稲刈り、冬になると牛の爪切り、春になると山から材木を運んだ。結構皆さんが私たちを当てにして仕事をくださった。そのおかげで、散髪をしたり、靴を買ったり、時計を買ったりもできた。

【高度経済成長時代の中で】

1954 年、アメリカがビキニで水爆実験をした。第五福竜丸の乗組員が死の灰を浴びて帰ってきた。亡くなられた時に、水爆には放射能があるとみんなが分かった。広島、長崎の人たちは、鉢巻きをして東京へ訴えに行った。1956 年に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）ができた。女性が着物を着て議長を務めておられた。

東京オリンピックが 1964 年にあったが、その３年前に私も高校を卒業し、旋盤工として働き始めた。一番嬉しかったのが、最初にもらった給料だった。母に最初の給料を差し上げ、ボーナスでハーネス洗濯機も買ってあげた。電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気アイロンなどが次々と登場し、その頃から日本は急に経済成長が加速した。すると石油がいる、石油を運ぶためにはタンカーがいる、造船業が盛んになる。私は船に積み込むバルブを作る仕事をしていた。それはもう忙しく働いた。

【核廃絶へ一人々の願いを世界へ】

ニューヨークのマンハッタンで反戦・反核のデモをした。ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキを訴えた。アメリカの中・高校生へむけて被爆証言をした。ワシントンのスミソニアン航空博物館には広島に原子爆弾を落とした飛行機が展示されていた。ああ、この飛行機がテニアン島から飛んできて、広島に原爆を落としたのかと思った。

2016 年５月 27 日、アメリカのオバマ大統領が広島を訪問し、歴史的な一日を迎えた。広島平和記念公園にものすごい人が来て、オバマ大統領を一目見ようとした。

2017 年７月７日に核兵器禁止条約が国連で採択された。私たちも外務省へ日本も参加するように促しに行ったが、外務省の答えはＮＯだった。それで「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを行った。全国から集まった署名の箱詰めをした。紙は重くてすごい重量だった。それを国連へ届けに行った。国連の中満 泉さんの事務所が本部の 32 階にあり、私も行かせていただいた。「日本こそ、この条約に参加すべきだ」と彼女は訴えておられた。

2019 年 10 月 11 日、ニューヨークの国連本部でコスタリカのホワイト議長の立ち会いの下、296 万 3889 名のヒバクシャ国際署名の目録をお渡しすることができた。その後、2021 年１月 22 日に核兵器禁止条約は発効した。

【ヒバクシャの魂を受け継ぐ】

広島平和記念資料館の正面玄関には藤井幸子さんの写真が展示されている。被爆されてすごい包帯を右手にしている。彼女も結婚され子どもを産んだが 42 歳で亡くなられた。幸子さんの子どもが哲信さんで、彼が高校二年生の時にお母さんが亡くなられたと聞いている。現在、哲信さんは母をモデルにした「焼け跡に立つ少女」の朗読劇に取り組んでいる。

毎年８月６日の式典の際は、市内の学生が「平和の歌」を合唱する。朝６時過ぎに生徒さんたちが集まって練習している。９時前になったらこの歌を歌って式典が終わる。恒久平和への誓い、34 万人の死没者名簿が石の箱の中にある。一冊の本のようになって、人々の祈りとともにに入っているー。

To everyone in the world 世界の皆さんへ。被爆者が生きているうちに核兵器をなくしてください。今生きている被爆者十万人の訴えです。ありがとうございました！

２０２５ 高校生平和大使のアピール

関西学院千里国際高等学校の小久保沙羅さんより、高校生平和大使としてのアピールがありました。高校生平和大使は核兵器廃絶に向けた活動に参加。1998 年に始まった平和大使プログラムは、毎年高校生が国連欧州本部を訪問し、署名を通じて核廃絶を訴えています。2001 年には「高校生１万人署名運動」がスタートし、これまで 272 万 3142 筆の署名が集まり、国連で永久保存されています。

田久保さんは、かつて住んでいた広島での平和学習や、ポーランドでウクライナから避難してきた人々の様子を見た経験から平和大使に応募。広島の平和公園を訪れ、「平和公園は大きなお墓」という言葉や原爆資料館館長の原田浩さんの講演を通じて、核廃絶への思いを深めました。

高校生平和大使は**「微力だけど無力じゃない」**というスローガンのもと、被爆者の思いを代弁し行動を続けています。活動へのご支援をお願いいたします！

「キャンプファイヤー講習会」

６／２１（金）
南部支部青年部

南部支部青年部が阿倍野市民学習センターにてキャンプファイヤーの講習会をおこないました。キャンプファイヤーの流れや構成の基本となる話から、ゲームや遊びについて実際に参加者と一緒に体験しながらすすめました。参加者からもこれまでの自分の実践を報告してもらいながら交流をしました。夏休みに向けて、林間学習や一泊体験の実施に際に活かしてもらえれば幸いです。また、現場にもどった時に振り返ってもらえるように、ゲームやスタンツの動画を収録したＣＤをお土産にお渡ししました。ＣＤについては若干、残部がありますのでご希望の方はご連絡ください。

☆全市分会代表者会議･･･各分会より代表者の参加をお願いします！
◇日時：７月２２日（火）１８：１５～　◇場所：大阪市教育会館東館 401 号室
※前回、開始時刻を誤って掲載していました。お詫びして訂正します。
◇内容：給特法改正に伴う「新たな職」「担任手当」の動向について　他